

# 製本のススメ

Vol. 103

あれよあれよと言う間に、すっかり秋になっていますね。柿・栗・サツマイモなど美味しい物がいっぱいです。ダイエットは寒い時に成功率が高いそうで気合を入れて、食べても痩せる！を目指そうと頑張っています。

今回は**机上に出ない寸法**の話し

日々 製本加工をする中で あと 1 ミリ寸法があれば・・・という印刷物が多くあります。その多くは用紙の厚みを考慮していない場合で、主に中綴じ加工（又は中ミシン加工）です。インデックス付などは、小口の色が足りない・あるいは文字切れが起こるといったトラブルを経験した方は多いのではないのでしょうか。

用紙の厚みは軽視されがちですが加工には重要なポイントの一つで、同じ斤量でも紙の厚みは違います。例えば、コート紙 4/6 判 135kは枚別 0.15 ですが、上質 4/6 判 135kは枚別 0.2 です。僅か 0.05 ミリですが 20 枚も重ねると 1 ミリの厚みとなり、これが製品の良否を分けます。

**しかし、ここまでは十分想定できる範囲です。**

実は 加工中に予期せぬ寸法が発生します。インクの盛り具合 折加工のたわみ 紙目の影響など諸々の要因が加わり 計算上は1ミリでも実際には2ミリ以上の計算外寸法が発生しているのです。一概には言えませんが 16 頁折1台分で1ミリ程度のずれが起こると考えてレイアウトを進めて下さい。厳密な寸法を割り出すには、やはり東見本を作り実寸から割り出して行くのが望ましいでしょう。

並製本（無線綴じ・アジロ綴じ）であっても、同様に厚みのトラブルは発生します。貼り込みの多い冊子や折り込みの多い冊子などは、特に注意が必要で糊の厚みにより若干の誤差が発生したり、折込みの影響で冊子に丸みがでます。背幅の不具合やインデックスの文字切れなども起こります。上製本等は、背の加工により厚みが変わるために東見本は必須です。



## Tea break

先だってあきる野市で行われた国体の馬術競技を観戦しました。人馬ともに息を合わせるのは大変苦勞があるそう。人と人だって息を合わせるのは難しいのに、相手は馬ですから。しかし見事な騎乗ぶり！目前を駆け抜ける颯爽とした姿には順位もつけがたい。エキジビションに警視庁の騎馬隊演技がありまして、馬具に警視庁と刺繍が入っています。そういえば皇室の行事などで時々見かける騎馬隊ですが、正式には交通機動隊だそうです。

by (株) 井関製本